

令和3・4・5年度 新座市教育委員会委嘱

研究紀要

よく考え 深く学ぶ のびっ子の育成

～伝え合い、考えを深める授業を通して～



令和5年11月6日
新座市立野火止小学校

あいさつ



新座市教育委員会教育長 金子 廣志

本日ここに、令和3・4・5年度新座市教育委員会委嘱による新座市立野火止小学校の研究発表会が開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

現行の学習指導要領では、単に知識を記憶するだけでなく、それを活用して考える力や判断力、問題解決能力を身に付けさせることを重視しています。

その中でも、相手の立場を理解する視点の獲得や、他者の考えに共感し、建設的な意見を交わす「対話力」を育てることに重きを置いています。これは、多様な価値観や文化的背景を持つ人々と協働し、共に生きていくために必要な能力です。また、指導要領ではICTの活用を促進させ、情報を適切に扱う能力やメディアリテラシーを身に付けることも強調しています。本市におきましても、これまでの実践とICTをベストミックスさせた授業改善により、「令和の日本型学校教育」に示されており、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現を目指しているところです。

このような中、野火止小学校におかれましては、「よく考え 深く学ぶ のびっ子の育成」を研究主題とし、伝え合う力の育成を目指し研究に取り組んでこられました。特に、「児童の疑問から課題をつくり、課題と正対したまとめを児童が自分の言葉で書くように指導すること」については、研究の重点として位置づけ、組織的な授業実践や管理職による教室訪問で検証し、「全ての児童が確実に伸びる学校」を目指してこられました。本研究は、児童が主体的・対話的に学び、社会の形成者として生きていく力を育成することにつながると確信しています。

最後になりますが、本校の研究のために熱心に御指導いただきました、十文字学園女子大学学修支援センター 特別招聘講師 児玉 裕子 様をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げますとともに、野火止小学校 丹代 円 校長を中心に御努力いただいた教職員、並びに研究推進に御尽力賜りました皆様に感謝申し上げます、あいさつといたします。



新座市立野火止小学校長 丹代 円

次期教育振興基本計画における方向性として、ウェルビーイングの向上が挙げられております。また、日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを、教育を通じて向上させていくことが求められています。これまで低いと言われていた人生の満足度尺度においても、「自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思う」などの協調的幸福感尺度においては概ね他国とは変わらないという結果となっています。

このような流れの中で教育活動全体を通じたウェルビーイングの向上を考えたとき、子供たちの多様な状況に応じた学習者主体の学びや多様な他者と協働した学びなど、様々な教育活動の中で児童が感じる主観的指標として考えられるのは、「授業の内容がよくわかる」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」などのことであり、これまで本校が新座市教育委員会の委嘱を受けて取り組んできた「よく考え 深く学ぶ のびっ子の育成」～伝え合い、考えを深める授業を通して～の研究と重なるところが多くあります。

研究はまだ道半ばであり、教職員の指導力向上についてはまだまだ課題も多くあります。ご参会の皆様には、忌憚のないご意見・ご指導をいただき、さらに研究を深めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、これまで懇切丁寧にご指導いただきました、十文字学園女子大学学修支援センター 特別招聘講師 児玉 裕子 様、新座市教育委員会学校教育部教育支援課副課長 石井 弥和子 様、同じく教育支援係長 吉田 泰生 様、新座市教育委員会学校教育部教育相談センター指導主事 坂根 英子 様に厚く御礼申し上げます。そして、様々な御指導・御支援をいただきました新座市教育委員会教育長 金子 廣志 様をはじめとする新座市教育委員会の皆様から感謝申し上げます、あいさつといたします。

研究の成果と課題

【 成 果 】

- 各教科等の特質に応じて手立てを工夫しながら授業の展開を考えることで、目指す児童像に近づくことができた。
- ICTを活用することで意欲的に学習に取り組んだり、話し合い活動が充実したりし、主体的・対話的に学ぼうとする児童が増えた。
- 継続的な言語活動の取組により対話的な学びが充実し、児童の考えに深まりが見られるようになってきた。

【 課 題 】

- 児童が身に付けた力を他の学習や生活の中で生かしていけるように、その機会を設定していく必要がある。
- 全教職員がICTを効果的に活用していけるよう、更に研修を重ねていく必要がある。

御指導いただいた先生方（令和3・4・5年度）

十文字学園女子大学学修支援センター特別招聘講師	児玉 裕子 先生
新座市教育委員会学校教育部教育支援課副課長	石井 弥和子 先生
新座市教育委員会学校教育部教育支援課教育支援係長	吉田 泰生 先生
新座市教育委員会学校教育部教育相談センター指導主事	坂根 英子 先生

研究に携わった教職員

◎研究推進委員長 ★研究主任 ☆研究推進委員

校長 丹代 円	教頭 布施喜美恵	教務主任 ◎廣田 康秀	
第1学年 酒見 則子	藤澤 まゆ	☆木村 教子	副担任 小菅 和美
第2学年 枝村 頼子	★村山由希子	櫻井 宇宙	
第3学年 真野 竜輔	沼澤千恵子	☆櫻田 舞	
第4学年 昆野 克則	☆野口 栞	今村 晃子	
第5学年 ☆中里 萌里	中山広太郎	田口 由紀	
第6学年 ☆原 彩花	大乗 菜々	加藤 大輝	
特別支援学級 ☆内田くるみ	根岸 雅代	土方 友望	
音楽専科 小川 亜季	図工専科 関工専科	大崎寿美子	
算数・書写 八田 尚子	養護教諭 養護教諭	向井 里奈	栄養職員 西川 聡子
県費事務員 寺蘭扶美子	市費事務員 市費事務員	後藤 通子	初任者後補充 松田 寛悦
英会話講師 佐藤 利恵	子どもと親の相談員 子どもと親の相談員	齋藤 久代	図書整理員 櫻谷香代子
特別支援教育支援員 齋藤賀代子	富田 淳	PC業務補助員 PC業務補助員	藤野 啓子
介助員 大竹久美子	永石 方子	小濱さやか	スクールサポートスタッフ 小池 高美

【令和3・4年度】

校長 近藤 章宏	片桐 雅人	須藤 琴美	坂田 恵樹	梅村麻未子
興津 直弥	小林 良太	根本 知未	富田 由貴	井口 ら奈
池田 英晃	松崎柚寿香	小泉 和輝	森下 友哉	船津 藍子
岸尾 順子	藤枝 美波	清水 一洋	小河 理恵	宮井 明子
鴫澤 恵	増間 徹	古谷 彩美	大塚真由利	土佐林恵理子

おわりに

本校では、令和3・4・5年度の3年間、新座市教育委員会の委嘱を受け、「よく考え 深く学ぶ のびっ子の育成」～伝え合い、考えを深める授業を通して～ を研究主題として、目指す児童像「主体的・対話的に学び、考えを伝え合うことができる児童」に迫るため校内研修を進めて参りました。

1年目は副題を ～伝える力を育む国語科授業を通して～ として、指導者を招聘して全学年で国語科の授業研究に取り組みました。2年目は教科の幅を広げ、副題を ～伝え合い、考えを深める授業を通して～ と改め、算数科・社会科にも1年目の研究結果を生かして取り組みました。

本日は、国語・社会・算数の授業で、児童が主体的・対話的に学ぶ姿、考えを伝え合う姿をご覧になっていただけたら幸いです。

最後に、これまで本校の研究に対し、懇切丁寧にご指導いただきました十文字学園女子大学 学習支援センター 特別招聘講師 児玉 裕子 様をはじめ、新座市教育委員会の皆様に心より感謝を申し上げます。

教頭 布施 喜美恵

【研究構想図】

〈学校地域教育目標〉

- 考え学ぶ子
- 仲よくする子
- たくましい子
- 地域を愛する子

学校経営方針
『全ての児童が確実に伸びる学校』
～のびゆくのびっこプロジェクト～

〈児童の実態〉

自分の思いや考えを伝えることができる児童が多い。
自分の考えを話すことは好きであるが、書いて表現することが苦手な児童が多い。
決められたことは行えるが、自分で考えて活動することが苦手である。

研究主題 よく考え 深く学ぶ のびっ子の育成

～伝え合い、考えを深める授業を通して～

【研究の仮説】

- 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を行えば、その目指すところを実現させることができるであろう。
- 児童の言語感覚を育成する取組の工夫を行えば、その目指すところを実現させることができるであろう。

◎目指す児童像

主体的・対話的に学び、考えを伝え合うことができる児童

【低学年】

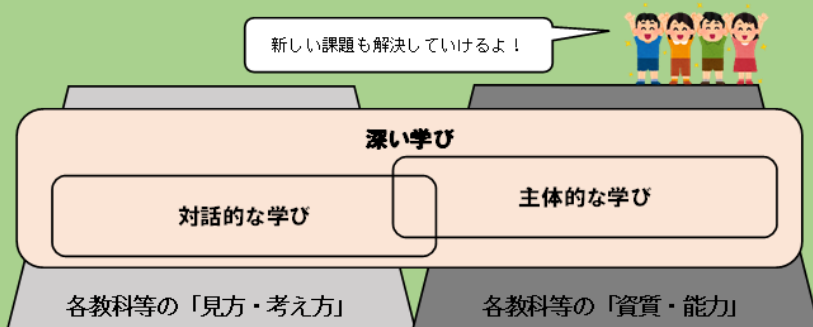
順序よく伝え合う児童

【中学年】

根拠を明確にして伝え合う児童

【高学年】

効果的に伝え合う児童



視点1

【主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善】

- ◎のびっこがのびる授業づくり10
- ◎主体的な学びのための手立て
- ◎対話的な学びのための手立て
- ◎深い学びのための手立て

視点2

【児童の言語感覚を育成する取組の工夫】

- ◎環境の整備
- ◎年間を通した言語活動

専門部の取組

【授業研究部】

- ・指導計画の工夫・改善
- ・授業作りのアイデアの発信

【環境整備部】

- ・校内掲示の検討、充実
- ・チャレンジタイム問題の整備

【調査部】

- ・アンケート調査の作成・実施
- ・児童の実態把握、実態分析

主体的・
対話的で
深い学び

【令和3年度】

「話す・聞くチーム」と「書くチーム」に分かれて国語科の研究

【令和4年度】

国語科で身に付けた力を他教科等で活用させる授業研究（各学年）

【令和5年度】

「国語科チーム（1、2年）」、「社会科チーム（4、5年）」、「算数科チーム（3、6年）」に分かれて、各教科の特質に応じた主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業研究

【視点1】主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善

『のびっ子がのびる授業づくり10 (R5年度版)』

「よく考え 深く学ぶ のびっ子の育成」～ 伝え合い、考えを深める授業を通して～

のびっ子がのびる授業づくり10

学びに向かう力・人間性等の涵養

見方・考え方を働かせる授業を目指す

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成

生きて働く知識・技能の習得

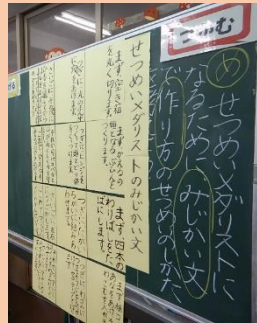
ICTと外部講師の活用を積極的にしよう。

- 本時を終えたあとの児童の姿がイメージできる。(どのような姿になっていけばよいのか。)
- つかむ
 - めあてが明確になっている。
 - めあてをつかませるための工夫がある。
 - 単元全体の見通し、課題解決のための見通しがある。
 - 児童が考える場面がある。
- つなげる
 - 事象、資料、叙述など、考えの根拠となるものがある。
 - 児童が自分の考えを伝えたり比べたりする場面がある。
- つみあげる
 - 児童が自分の考えを整理する場面がある。
 - 学んだことを振り返る場面がある。
 - 学習の流れがわかる板書になっている。
 - 学んだことを活用する機会がある。

めざす児童像に向けた授業づくりで意識したい10項目。
A6サイズにラミネートし、週案簿や教科書等に挟んで活用。

主体的な学びのための手立ての例

①必要感を持たせる導入の工夫



②実体験と結びつく課題設定



〇〇について考えていくな。

③実態調査に基づく、課題の明確化



〇〇ができるようになりたいな。

対話的な学びのための手立ての例

①個人で考える十分な時間の確保



②ペアやグループでの伝え合い

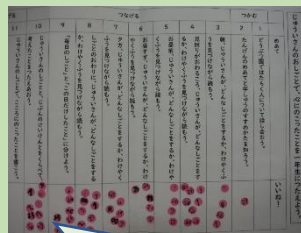


③他者からのリアクション

②リアクション ～聞き手の意見～

私も同じで、... それは考えつかなかったよ。私は、... にいるところがあって、...
少しちがっているところもあって... どうして...と考えられたの? ...って話していたけれど、どういう意味?
前に...ということもあって... の場合には、...私なら、...だなぁ。なぜかと言うと...

使ってみたい表現の例



シールで良さを認め合う

④思考ツールの活用

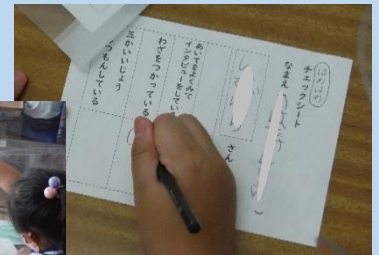


職い	政治	外国とのかかわり
有力な大名を倒す	藩市・楽座	商賣貿易
桶狭間の戦い	商業都市を支配	キリスト教の伝播
本能寺の变	お茶屋(以下町に茶屋を住まわせる)	資金
大量の戦物や武器などの没収	資金	関所をなくす
足利氏を新幕府から追放		

深い学びのための手立ての例

①自己評価と他者評価

はい。しっかりできていたよ。



②振り返りの蓄積

見比べる。友達との振り返りを見比べる。



個人での蓄積

ふりかえり
今回は市の取り組みを調べました。地図(ハザードマップ、防災マップ)などは市役所がつくっていることがわかりました。この学習で市役所はすごいことをやっているの、わかりました。

ふりかえり
私は小学生でもできることはあるということがわかりました。災害が起きたときに私もみんなと協力をして、人助けをしたいです。

ふりかえり
今回は市役所の人たちは自主防災会の人と協力している事がわかりました。市民にできることがたくさんあると知りました。

ふりかえり
「自助」、「公助」、「共助」について学びました。「自助」は聞いたことはあったけれど、意味はわからなかったの、今回知れてよかったです。

③他単元や他教科等での活用



国語で身につけた力を使って、社会科で討論会。自他の考えを比べ、考えを深める。

【視点2】児童の言語感覚を育成するための取組

階段踊り場の掲示物

環境の整備

各学級の教室



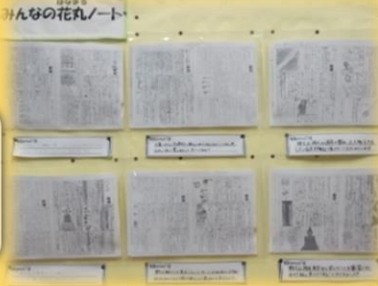
児童の手が自然と伸びるような操作性のある掲示

つた あ めいじん 伝え合い名人 書くこと編 (堂挙筆)	
レベル	できること
☆☆	話し手のほうに棒をむける
☆☆	うなずきながら聞く
☆☆	さいごまで聞く
☆☆	聞きおとさないように、しゅう中して聞く
☆☆	ひとつのことごときをきく
☆☆	しつ断する
☆☆	相手が見えないことにおいて、相手のいよをたづねる
☆☆	ひとつのことごとにおいて、相手のいよをたづねる
☆☆	話し手の考えと自分の考えをもちかえりあう

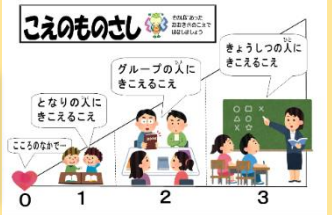
話し合い編 (堂挙筆)	
レベル	できること
☆☆	あいての話をうけて、話をつなぐ
☆☆	しかのやくわりをはたしながら、話をし合う
☆☆☆	きょうつうてんやそういてんに、ちやくもくして、考えをまとめる
☆☆☆	たはばやしをめぐりながら、話をし合う
☆☆☆	考えを広げたりまとめたりする
☆☆☆	(思考ツールを活用する)

これまでに学習してきた、伝え合うための技を意識させる

考えのまとめ方や振り返り等を児童同士が互いに見られる掲示



場に応じた声量で、聞き手に伝わる話し方を意識させる



年間を通した言語活動の例

スピーチ



人前で話す経験、メモをとる練習

ペアやグループでの スマールトーク



伝え方を考えながら

朝のチャレンジタイム



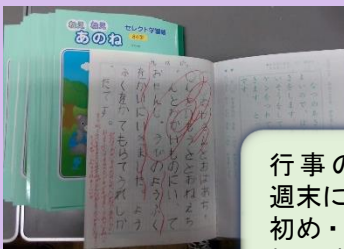
5分間の積み重ねで語彙を増やす

辞書引き



様々な言葉に出会う

作文ノート



行事の後や週末に初め・中・終わりの構成で

タイピング練習



速く正確な入力を目指に

ディスカッション



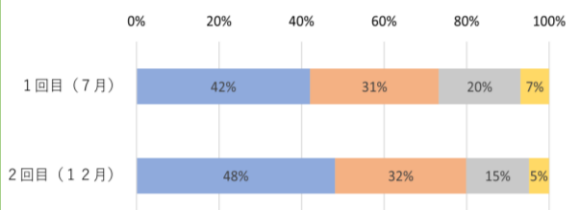
理由を明確にして、考えを伝え合い、深めていく

児童の意識調査結果

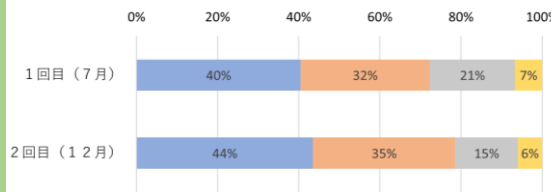
(令和4年度実施)

■あてはまる ■どちらかといえばあてはまる ■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない

自分の考えや意見を友達に伝えることができる。



友達の考えを聞いて、自分の考えをより良くしたり、新しい考え方に気付いたりすることができる。



研究の視点1、2に沿って手立てを工夫し、実践していくことで、対話的に学びを深めていこうとする児童が増加した。令和5年度7月の調査においても、同様に上向きの傾向が見られた。